

★学校教育目標 ○たくましい子 ○たすけあう子 ○かんがえる子			★重点計画の概要		
★目指す学校像（ビジョン）			○人権を尊重し自他の「いのち」を感じ、「いのち」の大切さに気付き、「いのち」を尊重する態度を育む ○地域密着型の学習活動を実施し、地域や保護者とともに活動することを通して、地域に愛着をもち、地域のことを考える児童を育む ○児童が「わかる」「できる」と言える授業を目指してユニバーサルデザイン化をすすめ、基礎基本の定着を図る ○いじめの発生を防止する ○食への関心を高めるとともに、自ら運動する習慣を身に付けさせることにより、健康で体力を高める児童の育成を図る		
【めざす児童・生徒像】 ① 心身共に強く健康な児童 ② 温かな心を持ち、力を合わせて活動する児童 ③ 郷土を愛し、自ら考え表現する児童					
【めざす学校像】 ① 学び活動する楽しさがある学校 ② 安全・安心で、豊かな情操を育む学校 ③ 保護者・地域と共に歩む学校					
【めざす教師像】 ① 全ての児童に学ぶ喜びを味わわせる教師 ② 児童相互の友情や信頼を築く教師 ③ 学校組織を活性化させる教師					

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標		評価点		
いのち	人権を尊重し自他の「いのち」を感じ、「いのち」の大切さに気付き、「いのち」を尊重する態度を育む	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通じて道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図る 自他の「いのち」を尊重し合い、望ましい人間関係を構築する指導をする 	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じ、道徳的な課題を自己の問題としてとらえ、「考え、議論する」道徳科の授業を展開する。 「いのち」の多様性やその大切さに気付くために、第2校庭の湧水を利用したピオトープや学級園、飼育しているヤギを活用した指導を積極的に行う 	4	4	4	4	「いのち」とは、生きていく力であり、すべての活動の基盤となる。一人一人の多様な個性（いのち）が伸長され、輝いていくように、人権教育や道徳教育を充実させていってほしい。また、様々な活動をおして、自分が大切にされていることに気付かせていってほしい。	「自分や他の人の命を大切にしようとして」という質問に対して、96%の児童が「できる」と回答している。日常的な様々な取組によって、人権や生命尊重の意識が育ってきている。一方で、あてはまらないと回答している児童もいることから、日常的な指導に加えて、個別指導を継続的に行う必要がある。また、保護者会で児童の姿を伝えたり、学校、学年日より等で啓発したりでき、児童、保護者の意識化を更に推進する。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
学び	全ての児童に基礎・基本を定着させるとともに、積極的に授業に参加し、「わかる」「わかる」喜びを体験できる授業を実施することで、児童の自己肯定感を高める	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習を取り入れた学習を展開し、目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や成就感を味わわせ、児童一人一人の自己肯定感を高める指導をする 授業のユニバーサルデザイン化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教科で積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた問題解決学習を展開する 目標を明確にもたせ学習への取り組みを通して達成感や成就感をもたせ、児童一人一人の自己肯定感を高めるような授業を展開する どの児童にもわかりやすく、学習課題を明確にもって取り組めるUD化した授業を展開する 	4	4	4	4	目標をもって意欲的に学習に取り組み、「できた」「分かった」という達成感を味わわせてほしい。また、授業中にだれもが安心して発言できるように、グルーピングや机の配置などにも工夫を加えていくとよいだろう。授業の理解が深まるよう、家庭学習を定着させることが大切である。	授業のUD化やICT機器の効果的な活用等により、児童が「できる・分かる」喜びが体験できるような授業を展開していき、「授業が分かりやすい」と回答する児童も90%以上となっている。しかし、「自信をもって頑張れる」と回答する児童は85%となっており、全ての児童に達成感や成就感を味わわせるには至っていない。児童が主体的に学習に参加できるよう、児童の実態に合った課題を設定し、話し合い、深め合う活動を更に充実させていく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
地域	保護者や地域と共に活動し、学ぶ教育活動を推進することを通して、学区（豊田、川辺堀之内、南平）や日野市に愛着をもち、考える児童を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間を核に、地域の中で学ぶ学習活動を繰り返し行い、その成果を保護者や地域に発信する 	<ul style="list-style-type: none"> PARCの学習過程を踏まえた指導を実施する 生活科や総合的な学習の時間で、共に学び合い課題を解決する授業を展開する 昨年度までの研究成果を生かしつつ、指導計画の改善に取り組む 	4	4	4	4	地域をステージにした学習はとても素晴らしい。子供たちが自ら考え、地域とのつながりを大切にしながら、自信をもって学習を展開している。地域を身近に感じているようである。今後も、地域の教育力や教育資源を大いに活用してほしい。地域から学校へ発信していき、連携をより深めていきたい。	今年度も地域教材や地域人材を活用した学習を積極的に展開し、「地域のよさを理解している」と回答した児童も80%を超えている。しかし、「地域の人がかかわるのが楽しい」と回答する児童は78%となっており、地域の人とかかわることや地域のよさを理解が一致していない。地域とのかかわりの中から、地域のよさを実感できるように取り組みをしていき、地域に貢献することができる児童の育成を今後も目指していく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
生活指導	いじめゼロを目指す	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーと連携しながらいじめの早期発見・早期対応をする 児童全員の居場所があり、教師と児童、児童同士が信頼できる学級を実現する 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを2か月に1回実施し、児童の実態を把握することで児童理解に努める 担任や児童同士で協力したり認めたりする機会を意図的、計画的に設ける 「思いやり・親切」「いじめ」に関する授業を各担任が学期に1度行う 	4	4	4	4	いじめアンケートやSOSの出し方教育など、「いのち」を大切に取る取組を充実させてほしい。豊田小は男女が仲良く活動していることで、引き続き思いやりのある子供を育成してほしい。「何でもだめ」と禁止するのではなく、子供自らが体験し、失敗や成功の実感を味わわせていくことが大切である。	児童アンケートから、多くの児童がいじめについて取り上げてくれると感じている。教員自己評価アンケートでも、ほとんどの教員が「思いやり・親切」「いじめ」にかかわる指導を2日に1回以上行ったと回答している。しかし高学年では担任に相談できないケースもあるため、全学年共通して、何か悩みがあったら担任の先生だけでなく、学年の先生やスクールカウンセラーにも相談できることを様々な場面で伝えていく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
特別活動	児童に主体的に学校生活上の課題を解決させることを通じて、人と主にかかわる力を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> 児童会、委員会、クラブ、学級会等における会議の進め方のスタンダードを作成する なかよし班活動を充実させる 異学年の交流を深めるために、なかよし班会議やなかよし班給食を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会の進め方のスタンダードを教員間で共通理解し、子供まつりや運動会等の行事に向けての話し合い活動で活用する なかよし班活動の目的を意識した活動を行わせるため、班長への事前指導を徹底する 異学年の交流を深めるために、なかよし班会議やなかよし班給食を実施する 	4	4	4	4	話し合いで課題を解決するための意見を言うことができたと言え児童が80%以上 話し合いで課題を解決するための意見を言うことができたと言え児童が70%以上 話し合いで課題を解決するための意見を言うことができたと言え児童が60%以上 話し合いで課題を解決するための意見を言うことができたと言え児童が60%未満	話し合いで課題を解決するために意見を言うことができた児童が増えている反面、意見を言えない児童が固定化されてきている。各教科や道徳及び総合的な学習の時間でも話し合い活動を取り入れた授業を積極的に行う中で、相手を確認、尊重する姿を伸ばしていく。なかよし班活動では、長期休業前に地区別の保護者にも参加していただくことで、児童が地域に目を向けるきっかけとなっており、今後更に活動を充実していくため、取組内容について説明する場を設けていく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
体育	運動を好み、進んで運動する児童を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間には校庭で元気に遊ばせる 児童が体を動かす楽しさを味わったり、運動に夢中になったりする体育の授業を実現する 体育的行事を通じて運動のよさや成就感を味わわせる 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす楽しさや心地よさを感じ取ることができるように、休み時間の楽しみ方を指導したり、休み時間に教員と一緒に運動したりして、校庭で元気に遊ぶ指導をする。 「ゲーム」及び「ボール運動」領域の1単位の指導計画をモデル化し、見直しをもって活動に取り組ませる 各学年の実態に応じた体育用具を充実させ、活用することで運動に親しませる 	4	4	4	4	運動会では、子供たちが生き生きと運動に取り組んでいる。動きがきびきびとしていて、普段から体を動かすことに力を入れていることが分かる。運動する子としない子が二極化している。また、昔よりも簡単に怪我をしてしまう子も増えているようである。日頃から運動に親しむような取組をたくさん実施してほしい。	なわ跳びタイム、ランニングタイム等を設定し、年間を通して運動に親しむ態度を育てる機会を設けたことで、体を動かす楽しさや心地よさを感じる児童が増えてきている。外遊びの内容が固定化されているが、や遊びの内容が固定化されているが、体力の向上に結びついていないところがある。今後は体力テストの結果から、特に東京都の平均を下回っている力を伸ばしていけるよう、体育授業や休み時間の外遊び等、日常的な取組内容を改善していく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
食育	食への感謝の心をもち、食に関する知識及び判断力と望ましい食習慣を身に付けた児童を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 食のありがたさ、大切さを理解させる 望ましい食事マナーを身に付けさせる 給食を残さずいただくようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい給食会（栄養士、調理員、地域の方との交流会食会）を全学級で実施し、食への感謝の意識を高めるようにする 給食時間の流れ（準備や片付け及び食事の時のマナーなど）について、全教員共通理解して取り組み、食事をする時間を確実に確保し、各学級の残菜を減らす 	4	4	4	4	給食食材提供者との会食会は、子供にとっても生産者にとっても刺激的で、貴重な食育の場となっている。また、農家の方へのお手紙を書く活動は教育効果があり、価値ある活動となっている。以前よりも残菜が減っているのは、こうした取組の成果だろう。今後も地域と連携して、食育を充実させてほしい。	今年度も給食食材生産者や調理員、校長とふれあい給食会を全学級で実施し、食への関心や感謝の気持ちを高めることができた。また、調理員の仕事内容をDVDにまとめたものや、栄養士からの給食に関する手紙を紹介することで、給食の残菜が減り、完食する児童が多くなった。次年度も引き続きこうした活動を行い、保護者にも食育への好き嫌いをなくす指導を学校と協力して行ってもらうよう促していく。
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		
幼保小連携	学びの連続性の中で、希望をもって学校生活を送る児童を育成する	<ul style="list-style-type: none"> スタートカリキュラムを整備し、小学校生活への円滑な適応を図る 幼保と定期的に交流することによって、親近感や思いやりの心を育む 6年生に中学校生活に対する見通しした希望をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の視点にたったスタートカリキュラムを活用し、小学校生活に適應できるよう、見直しをもたせる 1年生の生活科や3・4・5年生の総合的な学習の時間において、幼保小の交流を活発にする単元計画を整備する 部活体験や出前授業など中学校生活を体験させる機会をもつ 	4	4	4	4	小中の連携で、部活動体験や出前授業など児童と生徒、児童と中学校教師が交流する活動があり、進学に対する不安を払拭できている。幼保小の連携では、園児との豊かな交流をおとし、互いに貴重な経験を積むことができていく。また、園児との交流を通して実施することにより、入学後の多くの児童が小学校生活を楽しく過ごすことができている。児童にとっては年下の交流を通して、思いやりや他者への優しさを育む機会となっている。次年度も継続して行っていく。	
				3	3	3	3		
				2	2	2	2		
				1	1	1	1		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。